

シフォン遊びのための歌

〔創作（作曲）〕

大野 雄子

シフォンスカーフを使った遊びは、保育の場でよく行われています。とりわけ3歳未満児にとっては、「いない、いない、ばあ」の変形のように半透明な薄地のシフォンから隠れていた顔が現れる意外性や、シフォンの色彩、軽やかな動きから情感豊かな心を育む魅力的な教材です。

しかし、シフォンで遊ぶ際に歌う遊び歌は、種類が多いとはいえません。そこでシフォンの特徴ある動きが引き出せる遊び歌を三曲作りました。

「あまやどり」は、シフォンの四隅にフェルト製の雨のしずく貼り付け、その重みから投げた時に傘のように落ちてくるシフォンの下に子どもを入れて遊ぶようにしました。

「さくらのはなびらひらり」は、造花または、フェルトを切り抜いた桜の花びらをシフォンに貼り付け、風邪に桜の花びらがひらひらと待っている様子を表現します。

「星をおいかけて」は、L. V. Beethoven作曲、ピアノソナタ第8番 ハ短調 作品13『悲愴大ソナタ』“Grande Sonate pathétique”のアレンジに詩を付けました。シフォンの一隅にフェルト製の星を貼り付けると、高く投げた時に重さのバランスによって流れ星のように落下します。シフォンの動きと日暮れや眠りにつく子どもの心象風景を重ね合わせて遊べるように考案しました。

あまやどり

作詞 大野雄子
作曲 大野雄子

♩ = 94



さくらの花びらひらり

作詞 大野雄子
作曲 大野雄子

♩ = 76



星をおいかけて

ベートーベン ピアノ・ソナタ8番「悲愴」2楽章より

作詞 大野雄子
作曲 Beethoven

♩ = 120

